

話題の新著サマリー

# 『ピカソのキャリア、ゆでガエルのキャリア』

キャリア・ポートレート コンサルティング代表  
村山昇 著

目次  
まえがき

- 【本書のコア・コンセプト】
- 【本書のコア・ストーリー】
- 【本書に出てくるオリジナル・キーワード】
- 【本書に出てくるメッセージ】
- 【本書巻末の附録】
- 【本書に関連するセミナーのご案内】

## 目次

まえがき

序章：四つの職人生模様

～あなたは何型？ 悲喜こもこものキャリア形成タイプ

- ・ 五十歳でのキャリアは人生の作品
- ・ キャリア形成の四タイプ
- ・ 四人の加藤さんが繰り広げる履歴書物語

第1章：「ゆでガエル」 人のための停滞を打ち破る扉

- ・ 安定を求める気持ちを改めよう

加藤さんの「ゆでガエル」キャリアの温床／HOWに安住して、WHA  
T・WHYを考えることをやめてしまふ／仕事はプロジェクト化し、自  
己更新を求めてくる

- ・ 恐れずに変化を仕掛けてみよう

人はリスクと引き換えに何かを得る／変化することに失敗はない

- ・ さよなら組織依存人、こんにちは仕事自律人

停滞が停滞を呼ぶ回路に陥る／働く「個」の新しい忠誠心／あなたの特  
ランクの出身は何？

- ・ 停滞回路を打ち破るために

レゴブロックを組み立てるように／「やりたいこと」をどう掘り下げて  
いくか／目的と動機を持てば、過去がすべてつながってくる

- ・ 【ゆでガエル】 人への処方箋【

第2章：「タンポポの種」 人のための漂流から抜け出す扉

- ・ 「転ぶ」「転職」、「転じる」「転職

「タンポポの種」の加藤さんの漂流のはじまり／転職という選択肢は  
劇薬に近い

- ・ 隣の芝生は「年収3割増」の落とし穴

キャリアはアップ・ダウンではない／赤と青を比べてどちらが上か下か／自分に核心がないとその職は長続きしない

- ・みずからの目的をつくり出す人になろう

「5+3=」と「+ = 8」の解／資格、スキルは手段。目的ではない

- ・「人材」と「人財」の差

ダイヤモンドのふたつの価値／「自分価値」を見つめてみよう

- ・漂流回路から抜け出すために

「何の山を登るか」から逆算する／視点と行動を変えれば、すべてがガフリ転換する

- ・【タンポポの種】人への処方箋】

### 第3章：「耕一さん」人のための深化をより実り大きくする扉

- ・変えることに寛容になろう

加藤さんの「耕一さん」キャリアのきっかけ／変える技術と変わらぬ信念

- ・燃え尽きないために

「できること」と「やりたいこと」／「イメージ」はしなりの力を生む  
／「イメージ・プル」は演繹思考から生まれる

- ・能力をタテとヨコに持とう

深掘りキャリアの再出発／T字型人財とt字型人財

- ・深化をより実り大きくするために

「機会」こそ深化キャリアの宝

- ・【「耕一さん」人への深化ヒント】

### 第4章：「ピカソ」人のための発展がさらに発展を呼ぶ扉

- ・変化と多様に身をまかせよう

加藤さんの「ピカソ」キャリアの引き金／Xプロジェクトの創出に動く  
ノタテの組織とヨコのネットワーク／良い仕事は才能のコラボレーションによってなされる／自分の軸を決めると、いろいろなものが集まってくる

- ・どんな人生かはやってみないと分からない  
本格的な変化を起こす加藤さん／転職面接に必要な「三つのC」／変化の仕掛けに挫折を覚える加藤さん
- ・偶発を必然に変える力  
混沌の中から光をつかむ／やりたい職は向こうから寄ってくる
- ・故郷、寄留地、実家、母校としての会社  
変わる個人と会社の縁（えにし）／人財と会社はゆるやかな「絆」によって結ばれる
- ・「七放・五落・十二達」の法則  
過去のことすべてつながる「十二達の丘」
- ・【ピカソ】人への発展ヒント】

終章：四人の加藤さん、四つの履歴書物語を終えて

- ・キャリアは意思がつくるのか、環境によってつくられるのか
- ・状況をつくり出す連続作業の先に「幸せのキャリア」が
- ・良き上司・良きメンターとの出会い
- ・「それを造れば、彼はやって来るだろう」
- ・すべては自分の意思の下に

＝ 附録 ＝ 【セルフチェックシート】

あなたのキャリアタイプがずばり分かる！

## まえがき

ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀みに  
浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとまりたる例  
(ためし)なし。世の中にある人と栖(すみか)と、またかくの  
ごとく。

鴨長明『方丈記』

「ピカソ」、「ゆでガエル」そして「キャリア」。

この本のタイトルをご覧いただいで分かる通り、なにやら突拍子もない言葉の組み合わせがいきなり目に飛び込んできます。

ですが、ご安心ください。この本は「自分らしく働く」として何だろう?」「仕事はその人の生き方そのものではないか」「職の将来が見えないが、明日の景色を拓くにはどうすればいいのだろう?」をテーマに、とても読みやすく仕上げたものです。

加藤さんというひとりの「ごくごく普通のビジネスパーソン」が登場します。その加藤さんと一緒に、彼の身の回りに起こっている日々の出来事を疑似体験してみてください。その仕事の山、谷をかくいくつっていく中に、読者「自身」の琴線に触れる場面や上司のひとこと、自分の気づきが、必ずいくつかあるはずです。

「ピカソ」や「ゆでガエル」、そして「耕一さん」「タンポポの種」は、キャリアのタイプの名称です。簡単に考えれば、血液型のようなものです。人はそれぞれ多様な職種についていますが、すべての職業人は必ずこのうちどれかのタイプに当てはまります(巻末にセルフチェックシートが付いていますので、是非、お試しください)。

いささか突飛な四つのタイプ名称ですが、それぞれにはちゃんと意味があります。それも読み進んでいくうちの楽しみにしていただければと思います。

また、「キャリア」という言葉は、なにがエリートの働き手のためのものを受け取られがちですが、この本では広く「働いていくこと」「仕事の軌跡・仕事の未来」「職人生」のようなニュアンスで使っていきます。

そうしたことから「ピカソのキャリア、ゆでガエルのキャリア」というタイトルには、読者のみなさんに「どのよう働き方、生き方が自分にとって最適なのだろう?」

という問いかけの意味を含んでいるのです。そして本文には、そのための思索のヒント、行動のヒントを随所に織り込んだつもりです。

また、この本を貫くとても大事なテーマとして「変化」があります。

変化は世の常です。雇用を取り巻く環境はどんどん変化しています。キャリアづくりにはいろいろな能力が必要ですが、これからの時代は、変化する状況とともにいかに自分を変化・更新させていくかが、最も大事な要素になるのではないのでしょうか。この本は、変化を楽しむための本です。変化という波乗りを楽しむがごとく。そして、あえて自分で変化を創り出すための本です。

ただし、この本はいたずらに転職を勧めるものではありません。私は、むしろ一社でサラリーマンとして留まることができればならそちらをおおいに勧めます。ですが、目の前のキャリアが閉塞し、未来が暗い状態なら、じっと一所で我慢すべきともいいません。

変化はすべての人にとってきますし、変化はすべての人が起こせます。そして変化はすべての人にチャンスを与えます（同時にリスクも付いてきますが）。

冒頭に引用した『方丈記』の有名な一節。

仏教の無常観はときとして誤解を受けるようですが、浅学な知識からすれば、世の中のものはずべて変化し、移ろい、やがては滅んでいく。だから虚しいというのではなく、だからこそ不変の「我」を築いていきなさいというのが釈尊の教えとしたことだと私は理解しています。

「コップ半分の水を、「半分しか」とみるか、「半分も」とみるか。冒頭の方丈記の一節を読んで、「だから変化は虚しい」と思った方はこの本は響かないかもしれません。

「だから変化を楽しもう」と読めた方は、最後まで「一読ください。必ず何かのヒントが得られるはずです。」

いずれにしても、人が現代社会を生きていくにあたって、キャリアは非常に大きな比重を占める問題です。生活の糧を得るといって経済マスターであり、自己実現・生き甲斐を得る心理マスターでもあります。みずからのキャリアを取り巻く諸状況が鈍く滞っている人も、イケイケドンドンの人も、いましばしキャリア思索の暇（いとま）をつくってみてはいかがでしょうか。本書がその思索の一助になり、多少なりともエネルギーの湧ききつかけになれば幸いです。

二〇〇三年十月

村山 昇

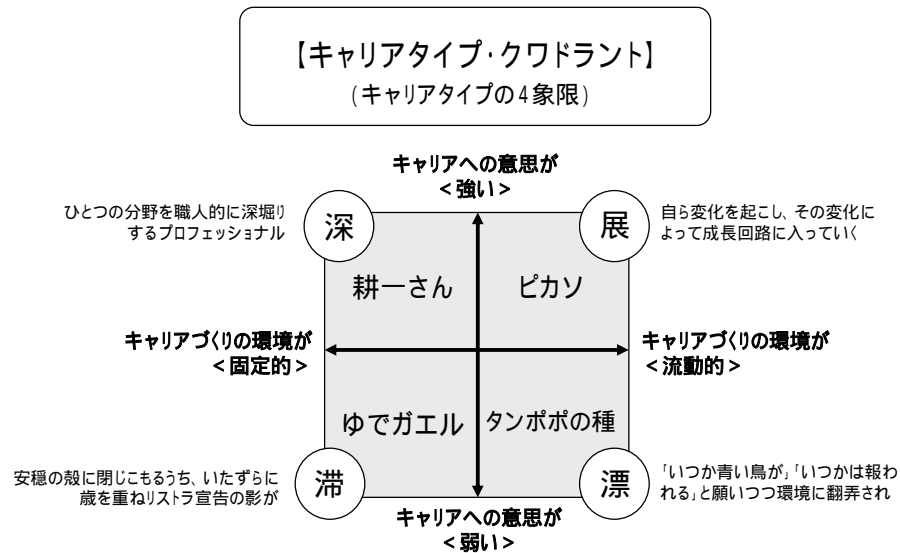
## 【本書の「コア・コンセプト」】

「人の数だけ、キャリアがある」。

ここでは、それほどに多様なキャリアを単純に四つのタイプに分けます。煩雑化する職種や職能に関わらず、自分のキャリアを考えるには、ある二つの軸で切り取れば、実に多くのことが見えてきます。日々の目の前の業務に忙殺される中で、ふと角度を入れて自分のキャリアづくりのタイプを認識してみる。その、はっとした気付きから自分の職人生が大きく展開します。

まずそのスタートが、自分はいま「ピカソ」なのか、それとも「耕一さん」なのか、あるいは「ゆでガエル」、「タンポポの種」なのかを知ることです。

本書はその四つのタイプを、現実のビジネスパーソンのキャリアストーリーから理解を深めていきます。そして、それぞれのタイプにつき、明日のキャリア景色をつくるための処方箋やヒントを綴っていきます。



## 【本書のコア・ストーリー】

1人の加藤さんが描く、4つのキャリア物語

本の中では、加藤さんといつこく普通のビジネスパーソンが登場します。加藤さんは自分の中に、保身の心、青い鳥を求める心、ひとつを極めたい心、変化を楽しむ心を内在しています。これらのうち、どの心に支配されるかで、やがて加藤さんは4つのまったく異なるキャリアの軌跡を描いていくことになります。

大学を卒業して消費財メーカーF社に入社した1人の加藤さんが、その12年後、意思の持ちようひとつでどんな姿に変貌しているのか、本編の4つのキャリアストーリーがそれを明らかにします。

その加藤さんと一緒に、彼の身の回りに起こってくる山あり谷ありの出来事を疑似体験することで、自分に最適のキャリアとは何かを理解していきます。（各ストーリーともに、加藤さんはハッピーエンドをつかんでいきます）

\*\*\*\*\*

「ゆでガエル」人のための停滞を打ち破る扉

加藤さんは大学卒業後、意気揚々とF社に入社した。

誠実と和を重んじ、与えられた任務を器用にそして着実にこなし、組織にも従

順に働いていく加藤さん。仕事と家庭の安定を願いながら入社して12年目、

会社から持ち上がったのは子会社への転籍話。

加藤さんには「何故、自分が？」という疑問が湧く。

だが、そこには「従順という名の依存症」が見え隠れしている。

「タンポポの種」人のための漂流から抜け出す扉

加藤さんは大学卒業後、意気揚々とF社に入社した。

そして12年経った現在、F社、P社、O社と三社に及んだ転職も思うに任せ



ない状況が続いている。そしていま、煙草をふかしながら、四社目の転職を考えている。

・・・「うーん、なにが違う。俺のいる場所はここじゃない」。これが加藤さんのいつもの口癖である。

「耕一さん」人のための深化をより実り大きくする扉

加藤さんは大学卒業後、意気揚々とF社に入社した。

担当する百貨店を巻き込んで消費者調査をやったことから、「消費者の曖昧な嗜好や感性を数値化する」プロフェッショナルになりたいと決意する。社内での調査の職人」と目されるようになった加藤さんは、順風満帆にそのキャリアを深めていくように見えた。

しかしある時、過労で倒れることに。そこには思わぬキャリアの落とし穴が待ち構えていた。

「ピカソ」人のための発展が発展を呼ぶ扉

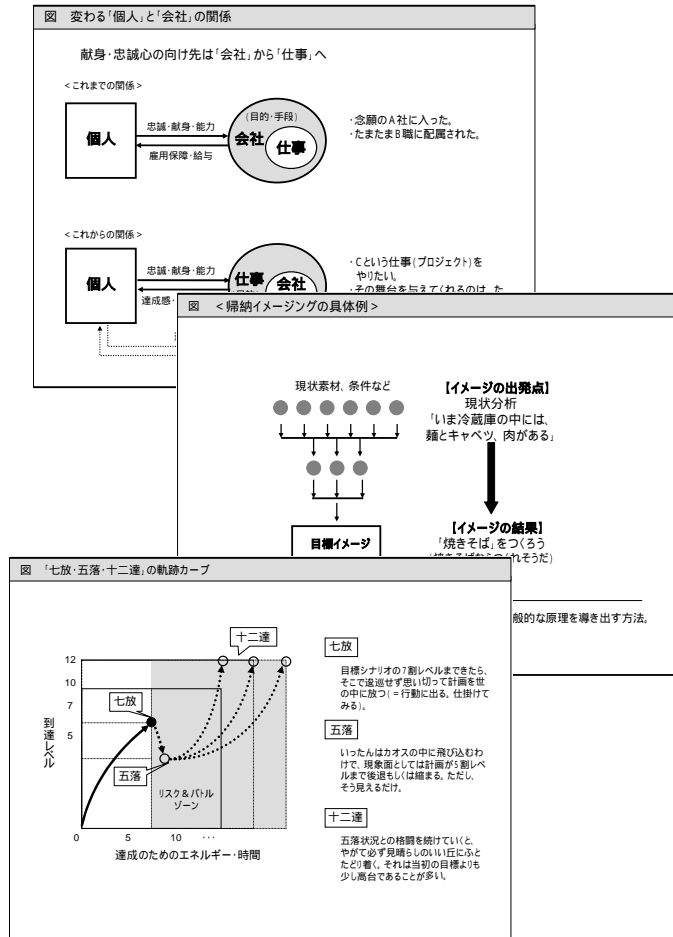
加藤さんは大学卒業後、意気揚々とF社に入社した。

仕事をきっちり覚えながら、入社丸一年が経とうとするころ、社内報でみつけたある記事をきっかけに加藤さんの「ピカソ」キャリアは展開を始める。

さまざまなプロジェクトを経験しながら、変化に継ぐ変化、不測に継ぐ不測の草むらをかき分け、道を探し、道をつくっていく。そして、入社十二年目。加藤さんがたどり着いた高台の丘で目にしたのは！？

【本書に出てくるオリジナル・キーワード】

- ・「フロー型」キャリアと「アンカー型」キャリア
- ・「七放・五落・十二達」の法則
- ・「転ぶ」「転職」、「転じる」「転職
- ・HOW（手段）・WHAT（目的）・WHY（動機）の3ユニット
- ・職の「サステイナビリティ」（持続可能性）
- ・職は「フラジャイル」（壊れ物注意）
- ・人材はR（リテンション）から、「B（ボンディング・絆化）」へ
- ・自分価値を伝えるための「3つのC」（Contents, Context, Communication）
- ・「イメージ・プル」の力
- ・未来の職を思い描く：「帰納」イメージングと「演繹」イメージング
- ・「5+3」「7」「+」「8」の解 etc.



キーワードとともに豊富な図を用意しています

## 【本書に出てくるメッセージ】

- ・二十八歳までのキャリアは、勢い。
  - ・二十九歳からのキャリアは、意志。
- そして、五十歳でのキャリアは、あなたの人生の作品。

・キャリアは、「アップ・ダウン」というより、「納得か・妥協か」である。

- ・「私には十年のキャリアがある」といった場合、  
一年のキャリアを十回繰り返しただけなのか、  
一年毎の経験を十回折り重ねていったのか。

- ・変化はリスクである。  
変化しないのはもっとリスクである。

・組織人は、会社に「働き口」を求める。  
仕事人は、世の中に「働く舞台」を探り出す。

- ・私たちにとって大事なことは、  
“ 変える技術と変わらぬ信念 ” です。

・金銭的に「成功のキャリア」が、  
思うがままの機会に恵まれている「幸せのキャリア」か。

・ **If you can dream it, you can do it.**  
(夢見ることができれば、成し遂げることもできる)

・ ウォルト・ディズニー

・ タテの組織では、連続的に物事を覚えていく。  
ヨコの自由なネットワークでは、非連続的に自分の中で変革が起こる。

・ **Chance favors the prepared mind.**  
(チャンスは、心構えた者のもとへ訪れる)      パスツール

・ 職は擦り寄るのではなく、  
職は招き寄せるものである。      etc.



企業の社員研修ご担当の方へ

## 【本書に関連するセミナーのご案内】

著書『ピカソのキャリア、ゆでガエルのキャリア』は、多くのビジネスパーソンに対し、広くキャリアマインドを醸成し、自分自身のキャリアプランを考えさせるきっかけを与えるものです。

この著書の内容をベースに、次のセミナー企画を行っておりますので、導入のご検討にあたっては、なんなりとお問い合わせください。

お問い合わせメールはこちらまで、 **info@careerportrait.jp**

- 一般企業・新入社員向け
- 「キャリア・スタートアップ」セミナー
- 一般企業・入社3年次社員向け
- 「キャリア・ビュー」セミナー
- 一般企業・入社5年～7年次社員向け
- 「自分価値」再構築（セルフバリュー・リインベントリー）セミナー
- 人材紹介会社・転職志望登録者向け
- 「パワー・ポートレート」インテンシブセミナー
- 大学・就職活動前学生向け
- 「パワー・ポートレート」スチューデントプログラム



『ピカソのキャリア、ゆでガエルのキャリア』

村山 昇 著

すばる舎

定価：本体価格 1400 円 + 税